

令和5年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日 時：令和6年1月20日（土） 13：00～15：30

場 所：新橋駅前ビル1号館6階605号室内 ダ・ヴィンチ大会議室

出 席

国臨協関信支部（敬称略・順不同）

吉田 茂久、椎名 將昭、齋藤 広樹、白井 洋平、秋山 卓思、井田 貴明、鷹取 有紀

竹内 智也、千木良 浩志、中村 良幸、人見 香奈、矢崎 裕一郎、山口 卓哉、小沼 進吉

遠藤 隆、前島 基志

地区会代表（敬称略・順不同）

茨城地区会：山田 晶

栃木地区会：長井 俊道

群馬地区会：柳澤 隆司

埼玉地区会：蓮尾 茂幸

千葉地区会：仲間 盛之

東京地区会：後藤 信之

東京・山梨地区会：北沢 敏男

神奈川地区会：武山 茂

新潟地区会：竹田 信邦

長野地区会：岡村 治

関東信越グループ 医療担当（敬称略）

前島 基志

欠 席

国臨協関信支部（敬称略・順不同）

飯田 伊織、渡辺 順也

1. 開会の挨拶（齋藤副支部長）

2. 支部長挨拶

お休みのところ午後からお集まりいただき誠にありがとうございます。また平素より皆様方には支部運営にご支援いただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本日は各地区会からの意見交換の場として重要な会議となっておりますので活発な討議をしていただければと考えています。会場が貸し会議室のため時間が制限されており、限られた時間の中で多くの討議をしていただきたいと思います。活動報告などは簡単にご説明させていただき、討議の場に時間を作ってまいります。何卒よろしくお願いいたします。

3. 臨床検査専門職挨拶

令和5年度国臨協関信支部地区代表者会議にあたりましてご挨拶させていただきます。新型コロナウイルス感染症は昨年5月に2類相当から5類感染症に移行しまして医療体制も大きく変化

し、生活様式も元に戻る中、各種の会議等 Web を活用した開催様式を選択せざるを得ない状況から本日の様な現地での開催を行える様になってまいりました。本日はご出席いただいております各地区代表者の方々におかれましては業務多忙の中ご参加いただきますことに心より感謝申し上げます。令和 6 年という新年を迎えましたが元旦に発生しました令和 6 年能登半島地震では石川県能登地方を震源としたマグニチュード 7.6、最大震度 7 を観測しましてその後の津波等による被害によりまして多くの方々の命が奪われて、未だ被災者の多くが避難生活を強いられている状況にあります。国立病院機構からも救護班派遣にかかる協力依頼が発出されておりました、管内施設から順次医療班が赴いてその任に当たっているところであります。対応にご尽力いただいております方々におかれましては現地での活動に十分注意していただき、派遣いただいている施設の方々にご協力深く感謝申し上げます。そして被災に遭われた皆様におかれましては心よりお見舞い申し上げます。被災地の 1 日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて昨年の各地区会を振り返りますと研修会・総会を対面開催する地区会やその後の懇親会を含めてフルバージョンで開催する地区会、会員間の親睦を深めるためのレクリエーションも行なわれている地区会もでてきております。本来の姿に戻りつつあることを実感しております。そしてコロナ禍で培われた Web を利用する方法、これをうまく取り組み合わせた活動をしておりまして会員の状況に合わせた参加方法を選択できるようになったことで、より会員の皆様が利用しやすく、身近に感じるようになったのではないかと思います。一方で再開された活動の中ではかつてを踏襲するだけではなくて、そのあり方や意味を再度考えるタイミングにあると思っております。

本日の会議では地区会と関信支部との活発な討議の中から次世代のあり方に繋がるような話し合いができればと思っております。この後の追加情報といたしましてご提供できることがありましたらお話しさせていただこうと思っております。

最後になりましたが、本日の会場をご準備いただきました吉田支部長をはじめとする国臨協関信支部理事の皆様には深く御礼申し上げます。

4. 令和 5 年度関信支部役員・地区代表者自己紹介

5. 関信支部経過報告(令和 5 年 4 月 1 日～令和 5 年 12 月 7 日)

資料は事前に配布し、追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行った

1) 事務局

2023 年 11 月 1 日時点の本年度総会員数(会費納入者数)は 679 名であった。

関信支部各地区会との連携、国臨協本部・臨床検査専門職・技師長協議会との協力・連携、文化活動、国臨協 OB 会関信支部との交流、諸会議の開催、第 51 回国臨協関信支部学会学会賞(学術奨励賞、学会特別賞、新人賞)選考、国臨協関信支部ホームページの活用、関信支部規約改正等について報告した。

また経過報告期間における受理文書、受理メール、発送文書、発送メールについて報告した。

2) 学術

Web 会議システム Zoom の契約、令和 5 年度国臨協関信支部学術委員会部門長会議の開催、令和 5 年度国臨協関信支部主催第 1 回研修会、国立病院機構関東信越グループ主催研修会、第 51 回国臨協関信支部学会、Web 会議ツール利用状況、学術委員会活動について報告した。

3) 広報

国臨協関信支部ニュースは令和 5 年 11 月までに紙媒体として 2 回、PDF 版(人事異動、学会特別号)を 2 回発行した。紙面内容は例年通り関信支部学会のお知らせ、新理事紹介、会員および施設や地区会、学術委員等からの記事を掲載した。232 号ではホームページの利用率向上を促す目的でスマートフォンからホームページを閲覧する方法を掲載した。また今年度より「アフターコロナ通信」および「学術のススメ」といった新たな企画も盛り込み、会員の皆様との相互利用の場として紙面の向上に取り組んできた。

国臨協関信支部ホームページは、関信支部活動や地区会情報誌の掲載、国臨協 OB 会関信支部だよりの掲載、第 51 回国臨協関信支部学会のコンテンツ作成等の更新を適時行った。またホームページ更新のお知らせを施設連絡責任者宛にメール配信を行った。そして会員の皆様からの幅広いご意見を伺うため新たに「会員の皆様の声」を設置した。

6. 監査報告(前期)

1) 監査方法

9 月 30 日(土)NH0 横浜医療センターにて開催されました。支部からは吉田支部長、椎名副支部長、齋藤副支部長、白井事務局長、秋山理事に対応いただき、会務および会計について監査を行いました。

2) 監査結果

① 事務局

会員の動向、昨年と同様の会員数を確保出来ていました。定期的な常任理事会に Web 会議システム(Zoom)を利用して開催され、研修会や各地区会の理事会等でも積極的に Zoom を活用する機会が増えていました。支部各地区会との連携や国臨協本部、臨床検査専門職、技師長協議会との協力・連携もされていました。また、関信支部規約等に関しても他の団体を参考にしながら現在に合ったものに改正されていました。発送文書、受理文書に対しても適正に行われていました。

② 学術

Web 会議システム(Zoom)を利用し学術委員会議、研修会、学会等が行われていました。学会に関しては今年度も EventIn を利用したライブ配信型の形式で、午前中の時間に集約して開催されました。学会進行も滞りなく行われており、学術委員による分科会はバーチャルスライドを用いた解説が好評でありました。今学会は午前中だけの開催で多少時間的余裕がなかったように思いましたが、よくまとまっている学会であったと評価できます。また事前の抄録の配布が遅れていたことから、次年度は余裕をもった資料の作成、発行をお願いしました。

③ 広報

ホームページに関しては昨年度とほぼ同様のアクセス数でした。今後はホームページの刷新が行われる予定であり、特定の理事のみではなく、理事全員でホームページの更新が行えるようにしていくとの報告がありました。また8月より「会員の皆様の声」を新設し、会員の幅広い意見を取り入れる試みが開始されました。

④ 会計

令和5年度前期会計決算報告を基に帳簿、領収書、通帳と照合を行い、適正に管理されていることを確認いたしました。

以上、令和5年度前期の会務内容、会計は適正であり、理事の会務執行に関して不正行為や規約に違反する事実はないことを認めます。

7. 各地区会経過報告

1) 各地区会報告

各地区会代表者より組織状況、活動状況、会議関係、広報活動、学術関係、文化活動関係等の報告が行われた。

8. 各地区会提出議題

資料は事前に配布し、追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行った

各地区会の提出議題には全て回答した(要望および質問は原則、原文の通り記載)

1) 事務局関連

(1) 支部理事を広く多くの会員に経験させる予定はないか(神奈川)

回答：予定は考慮しているが、経験を考えると理事は担当した部門の業務内容等の理解を深めるため、原則2期は同じ部門を担当していただくこととしている。各理事の理解度を確認しながら、定期的(1回/2期)に担当部門のローテーションを行いながら、幅広い会務を経験していただき、他協議会などの多くの人的交流を通じて、今後指導的立場で活躍してくれる人材育成に努めている。

(2) 支部理事の人数について(神奈川、茨城)

➤ 支部理事は地区によって理事の人数に違いがあるのはなぜか。また、以前に比べ理事の人数が大分多いと感じるが、行動費、移動費などの費用もかかるのでもう少しスリム化してはどうか。

➤ 理事の人数を減らしてはどうか

回答：前任より継続を表明していた理事が人事異動によって支部長も在籍している NH0 横浜医療センターに集中してしまっているが、異動について関信支部は関与することができず、異動を理由に継続の意思を無下にするにはできないと考えている。人数や地区の配置については、次年度までの検討課題としたい。人数については昨年度より支部役員の会務による負担

を軽減するために支部役員の増員(3名)を行った。現在、支部ホームページの外部委託化を検討しているが、実現すればホームページ業務が軽減されるため、1名減とすることを検討している。

行動費(交通費を含む)について常任理事会を含む会務(打合せ・会議等)は、基本 Web(ウェビナー)を用いて行っており、交通費等の負担は軽減化されている。また、来年度集合型での研修会等を開催する場合は、開催場所に近い役員のみ(必要最低限の人数)で会の運営にあたることも検討している。

(3) 支部と地区会との連携について(神奈川、長野、茨城)

- 支部理事を各地区に配置したが、必要の是非について検証が必要ではないか
- 情報共有の仕方について、支部として新たな取り組みなど考えはあるか
- 支部と地区会との連携方法がわかりにくい
- 各地区会と綿密な関係が築けているのか。当地区では地区の理事から情報提供などは一切なかった。

回答：昨年度の地区代表者会議でも賛否は別れた。地区会との情報共有・連携の方法については、今後も検討課題としていく。

(4) 高額な Zoom ミーティング PRO 5ID を使用しているが、無料の Teams を使用し使用料を他の事業等に振り分けることは考えていないのか(東京)

回答：第 8 回常任理事会でも討議されたが、オンデマンドや Web でのリアルタイム研修会においては有料で Zoom スポット契約し、常任理事会などは無料の Teams を使用する案が検討された。来年度までの新型コロナ感染状況を考慮しながら慎重に検討を進めて行く。

(5) 3 年間いろいろなイベントが集合型で行われていないので、支部の存在意義等について新しく入職した会員に直接伝えることが必要ではないか。(地区会で支部は活動報告を行っているが、もっと基本的なところも盛り込んでどうか)(東京)

回答：会員交流事業として、令和 6 年度は「ビアパーティー」の開催を予定しているため、積極的な参加をお願いする。

また地区会での「支部活動報告」については、内容の見直しを検討していく。

(6) 「会員の皆様の声」について(東京、埼玉)

- 投稿率はどれくらいなのか。問い合わせの内容確認の為と分からなくもないが、完全匿名化しないと投稿されにくいのではないと思われる。投稿しやすい工夫をお願いしたい。また、投稿場所があることを知らない会員もいるため周知して頂きたい。
- 会員からの意見を参考に、今後、関信支部として具体的に検討していく課題はあるか

回答：現在 1 通のみとなっており、その対応については関信支部常任理事会議事録を参照していただきたい。またインターネット上の誹謗中傷が問題視されている情報社会において、完全匿名化はその一助になり兼ねない。周知については 1 月発行の支部ニュース 234 号に紹介

記事の掲載を行った。投稿しやすい工夫や更なる周知については来年度以降の検討課題と考えている。

(7) 支部からのメール連絡について(東京・山梨、神奈川)

- 施設代表者宛のメールが、技師長・副技師長に届くのは何か理由がありますか
- ホームページの更新や研修会案内などは会員個人あてに案内できないか

回答：NC においては個人のメールアドレスを情報系の Outlook から取得することができないことや、個人情報の管理の面などを考慮すると現状では対応が難しいため、今後も施設の技師長・副技師長に職員への周知をお願いしたい。

(8) 退職後も繋がりを保つため、賛助会員（会費減額）などについて考えてほしい(長野)

回答：検討課題とする

(9) 臨地実習指導者講習会の受講料の助成を検討してほしい(長野)

回答：臨床検査技師等に関する法律施行令、臨床検査技師学校養成所指定規則の一部改正する省令の交付(令和 3 年 3 月 31 日文科科学省高等教育局長、厚生労働省医政局長)並びに臨床検査技師養成所指導ガイドライン(令和 3 年 3 月 31 日、厚生労働省医政局長通知)の発出に基づく変更であり、全臨地実習施設においては必ず 1 名以上の臨地実習指導者講習会を受講した「臨地実習生指導者」の配置が義務付けられているため、各施設(例：受託実習生受入分配金などの活用)での対応をお願いしたい

(10) 今年度の消耗品費予算に関して、昨年度実績が 3,848 円で令和 5 年度予算が 90,000 円だが、その根拠は。また、会議費の常任理事会・部会の昨年度実績が 435,711 円で令和 5 年度予算が 720,000 円だが、集合型に移行していくのか(茨城)

回答：年々決算額が減少していることから、段階的に予算額も縮小しているが、基本的に予算額は決算額を上回らないように決定している。次年度の予算も今年度の決算額の推移を見て決定する。

また集合型の会議等の回数増加により決算額も増加しているが、現時点では決算額、予算額の設定に問題は無いと考える。常任理事会の集合型への移行については、遠方施設の理事の負担が大きくなることから現在の集合型 2 回、Web 開催 10 回からの変更は検討していない。

消耗品費：令和 2 年度	予算額	300,000 円	決算額	180,038 円
令和 3 年度	予算額	300,000 円	決算額	24,654 円
令和 4 年度	予算額	200,000 円	決算額	3,848 円
令和 5 年度	予算額	90,000 円		

会議費（理事会等）：令和 2 年度	予算額	1,000,000 円	決算額	178,548 円
令和 3 年度	予算額	1,000,000 円	決算額	276,468 円

令和 4 年度	予算額	780,000 円	決算額	435,741 円
令和 5 年度	予算額	720,000 円		

2) 文化活動関連

(1) 会員交流の場について(埼玉、長野、茨城)

- 「with コロナ」としての会員の交流を支部としてどのようにしていくのか考えを教えてください(合同交流会、ビアパーティーなどの開催やそれ以外での会員交流を何か模索しているのか提示して欲しい)
- 集合型交流会の開催について、大人数での交流会については未だ難しいと思うが、少人数(特に新人、若手)での会員交流の場を検討して頂きたい
- 集合型イベントに関するアンケート調査結果を踏まえ、どのような対応とするのか
- 文化活動(ビアパーティー・合同交流会など)の復活はあるのか

回答：集合型イベントについては段階的な再開を目指す。令和 6 年度の合同交流会は中止を予定しているが、ビアパーティーの開催に向けて検討を開始している。

また令和 7 年度においては合同交流会の開催を予定している。

3) 学術関連

(1) 研修会活動・症例検討会の開催方法について(東京・山梨、神奈川、東京、埼玉、茨城)

- 研修会の開催方法については現地開催＋ライブ、オンデマンド配信が望ましい。オンデマンドのみの参加も可とする。
- アフターコロナで学会や研修会は集合型に戻るのか。遠方の会員は Web の方が参加しやすいと思うがハイブリッドなどは検討しているのか。
- メーカー主催の研修会や各学会主催の学術集会は、集合型開催に戻ってきているが支部主催研修会や学会は、今後も Web 開催のまま継続していくのか
- Web 開催およびオンデマンド配信は参加しやすく、今後も活用していただきたい。但し、人事交流等にも繋がるため、集合形式での開催も数回は取り入れていただきたい。
- 集合形式での開催の場合、予算面も含めて会場の確保に苦慮されると思うが、具体案あるいは決まっていることがあれば教えてください(例えば、公的施設の会場利用が可能とか)

回答：研修会の開催方法に関しては、現地開催又はオンデマンド開催を行うことにより多くの方に出席しやすい環境を整えたいと考えている。また、Web 会議システムの利用が可能であれば、ライブ配信(ハイブリッド開催)についても取り入れていきたい。

開催場所については、病院会議室や公的機関、企業協賛で行う場合は企業の会議室などを考えているが、利便性や予算の面も含めて選定していくべきかと考える。

(2) 研修会活動・症例検討会の内容について(東京・山梨、神奈川)

- 関東信越グループ研修と被らない領域の実技研修会を開催(基礎・初心者(資格取得研修を含む)・中級者向け)

- 「このような研修を用意している」のような発信があると活用の機会が広がると思う
- 「臨地実習指導者講習会」および「タスク・シフト/シェアを推進する業務」の研修会などを開催していただきたい

回答：実技演習に関しては機器等を使用するため施設の確保及び講師の確保が必要であり、現在のところ関信支部が単独での対応は困難である。企業と連携して実技研修を開催することが可能であるか検討したいと考える。

研修会の内容について現時点での用意している研修会はないが、今後、研修会の内容について早めに決定し、ホームページ等へ掲載するように努める。また各地区会において、「こんな内容の研修会を開催してほしい」等のご意見があれば、是非、検討させていただきたい。

来年度の研修会内容に「臨地実習指導者」に関する研修会を行う予定である。「タスク・シフト/シェアを推進する業務」に関する研修会については、講師等の選定が必要であり検討させていただきたい。

(3) 各地区会主催研修会について(神奈川、長野、茨城)

- 各地区会主催の研修会をオープンにして他の地区会からも参加できるようにできないか
- 各地区会の研修会内容を YouTube など活用して共有できないか
- 前回の地区代表者会議で地区会主催研修会等を支部会員が視聴できるような運用を検討し、研修会の充実を図っていききたいとあるが、今年度地区会主催の研修会の配信を行ったのか

回答：各地区会にて講師の方に許可を得ていただき、録画したデータを地区会より関信支部に送っていただくことが可能であれば、期間を設けてオンデマンド配信を可能かと思われる。また、関信支部から働きかけを促していきたいと考える。

YouTube の活用については関信支部主催研修会を含め、前向きに検討する。

また今年度は 1 件のみだが、長野地区会研修会の配信を行った。今後は配信数を増やしていきたいと考えている。

(4) 「誰でも簡単に(わかりやすく)質問できる環境整備を希望する」できればシステム構築をお願いしたい(神奈川)

回答：ホームページに「会員の皆様の声」の設置を行っている。また、設置に際しては、支部ニュースやメール配信を行っていたが、再度、施設のスタッフに周知をお願いしたい。

学術委員に対して迅速に対応を要する内容について回答を行うことは現状困難である。

メーカーの学術等を活用していただきたい。比較的柔軟に対応が可能な相談やアドバイス等については引き続き学術委員に対応をお願いしていく。

4) 学術委員会関連

(1) 地区会研修会講師の学術委員会への依頼について(東京・山梨、長野)

- コロナ禍以前のように、地区会から学術講演の依頼をして学術委員の方に講演していただくことは可能か

回答：可能と思われる。関信支部ホームページ会員専用：学術委員会より、各種申請書「講演会・研修会等の講師派遣依頼について」をご確認いただき、「国臨協関信支部研修会開催申請書（外部講師招聘用）」を事務局まで提出してほしい。

(2) 各分野の研究班の設立について(東京・山梨)

➤ 研究班からマニュアルの標準化や精度管理・学術情報を発信、ホームページ等も活用

回答：現時点での研究班として活動は、予算の面や班員の人員確保の面を考慮すると厳しいと考える。今後、学術委員や関信支部理事と協議を重ねたうえで、研究班としての活動が可能であるか検討することとする。

(3) 学術委員の所属施設の偏りについて(東京・山梨)

回答：関信支部としては、学術委員の所属施設の偏りがあるとは考えていない。選出は様々な方々との協議や推薦によって行われており、その結果、専門性の高い施設や規模の大きな施設からの選出が多い結果となっているものとする。各地区会で学術的に優れている方がおられましたら、是非、推薦していただきたい。

【国臨協関信支部学術委員会規程 第七条（選出）】

支部三役、地区会長、学術に指導的な立場の会員等と協議し、(学術的に優れた) 会員の中から学術部門員を選出する。

(4) 支部ホームページに掲載されている「学術委員会構成図」について(千葉)

➤ 構成図として分かりづらいと思うので更新してはどうか

➤ 学術委員会の存在を強調した方が良い

回答：学術委員会構成図についてはご指摘をいただいた通り、分かりづらい図となっている。こちらについては改めて組織図を作成し、ホームページに掲載することとする。

5) 学会関連

(1) 学会の開催方式について(東京・山梨、神奈川、埼玉、長野、茨城)

➤ 集合方式の学会開催+Web 配信(オンデマンドのみの参加も可とする)により参加機会を広げてほしい

➤ 集合型とオンデマンド型のハイブリッド開催についてどのように考えているか教えてほしい

➤ 第 52 回関信支部学会は、集合型での開催を希望する

➤ アフターコロナで学会や研修会は集合型に戻るのか。遠方の会員は Web の方が参加しやすいと思うがハイブリッドなどは検討しているのか。

回答：学会については、集合型で調整をしている。会場利用費等の予算的な面も考慮し、ハイブリッド開催については現状難しいと考える。概算ではあるがハイブリッドで学会を開催すると 200 万円程度の予算が必要である。

- (2) 関信支部学会は、年々演題数も減ってきているが、今後の支部学会の運営についてどのように考えているのか(東京)

回答：専門学会のような敷居の高い学会ではないので、新人会員や学会発表の経験が少ない会員においても発表しやすい学会であるため、関信支部として今後も学会の継続は必要であるとする。ただ、規模の縮小や隔年開催等については検討の余地があるとする。演題数については、各施設でのご協力が不可欠であるので、引き続きご協力をお願いしたい。

- (3) 地区会ポスターについて(神奈川、群馬)

- 企画テーマの伝達時期を早めをお願いしたい
- 企画の見直しをお願いしたい
- 地区会ポスターの廃止

回答：地区会ポスターのテーマに関しては、昨年より1か月程度早く配信した。あまり早い時期にテーマを公表した場合、地区会によっては会期をまたいでしまうとのことをご意見をいただいたこともあり、6月初旬が妥当かと考える。

企画については、毎年テーマを変えてポスター募集を行っている。基本的には地区会の地域の紹介や施設紹介、会員紹介等がメインのテーマとなっている。現在は、パワーポイントでの提出となっているが、集合型の開催になった際にはポスター展示としたい。

ポスターの廃止については、地区会によっても温度差があると認識している。地区代表者会議においても何度か話題になってきた意見ではあるが、現状は廃止の方向では考えていない。

- (4) 関信学会の新人賞はなくてもいいと思う(受賞したことにより、モチベーションアップは狙えるがそもそも新人の登竜門的な学会という認識である)(東京)

回答：第51回関信支部学会において70%弱の演題が新人賞候補対象の概ね5年以下の新人となっており、新人の登竜門的な学会という要素は否定できない。しかし、学術奨励賞や学会特別賞の基準に満たないが、評価できるといった演題について、新人賞対象の中で候補があれば表彰するといったスタンスで新人賞を設定している。

今後はご意見を踏まえて、学術委員会や理事で協議したい。

- 6) 広報関連(ホームページを含む)

- (1) 支部ニュースの発送について、学会特別号のPDF配信は良かったと思う。経費削減を考慮して、PDF配信を推進してはいかがか(埼玉)

回答：今年度は経費削減や理事の会務負担軽減を鑑みて紙面発行回数を4回から3回とした。発行しなかった11月号の主な内容は学会報告となっており、それを補うため学会特別号としてPDF版を新たに発信した。紙面発行を減らすことで経費削減となったため、来年度もこの運用は継続していきたいと考えている。更に、今後を見据えて他号でも電子化の発行を検討していく。

- (2) ホームページの活用について(東京・山梨)

- 学術委員活動等をホームページに掲載する
- ホームページをスマホ対応にする
- 動画による検査コンテンツの充実

回答：学術委員会提供の研修会資料等はホームページの資料アーカイブ等に随時掲載している。現在、学術委員会のページにはQ&Aを掲載しているが、学術情報の提供等の新コンテンツができれば随時掲載可能である。

スマートフォンでホームページは閲覧可能である。支部ニュース（232号「関信支部ホームページの活用法を知ろう！」）において、スマートフォンからホームページを開き会員専用ページの支部ニュースを閲覧する方法を掲載したが、予想よりホームページアクセス数が伸びていないので、今後どうすれば認知していただけるか検討したいと考えている。

研修会等の動画コンテンツについては試みたが、動画編集や技術的な問題により実現できていないのが現状である。今後も検討していくが、個人メインで管理するホームページとしては限界があるのでご理解いただきたい。

(3) ホームページのアクセス数について（埼玉、茨城）

- アクセス数は、コロナ前、コロナ禍、コロナ後で違いはあるのか
- QRコードを支部ニュースに掲載したことで、ホームページの閲覧数はどれくらい増加があったのか。学会や研修会の時期以外で閲覧数が増える効果はあったのか

回答：ホームページアクセス数の変動がコロナ禍による影響によるものかは断定できない。また学会や研修会がWebメインになったため、その分のホームページへのアクセスが増加したものと考えている。

支部ニュース（QRコード付き）とホームページアクセスについては、ある程度相関があるのではないかと考えるが、QRコードが決定的に効果を示しているとは証明できていない。

今後についてもQRコードなどを掲載し利便性の向上に努めていく。

(4) 外部委託化についてはどのような進捗状況なのか（茨城）

回答：本会議の支部提出議題にて討議予定だが、外部委託を調査した結果（メリット・デメリット、委託業者、契約内容、委託費用等）を報告させていただく。この討議を経て総会で承認が得られれば、来年度に試行段階に入りたいと考えている。

(5) 経費削減のために支部ニュースの発行回数を削減しているが、令和5年度会計予算案の印刷費が令和4年度の決算額とほぼ同額ということは、印刷費がかなり高騰したためなのか。

会務負担軽減となっているが、数年前に理事を増やしても広報活動の会務負担が大きかったのか。

回答：令和5年度予算案については、発行数の削減が試行案であったため減額にしていなかった。来年度はホームページの外部委託に伴い、新たな経費も必要となるため更なる発行数の検討が必要と考えており、それに準じた予算を提示していきたい。

昨年度より広報・ホームページ担当理事は1名増員とし、増員した理事についてはホームペ

ージ担当の会務引継ぎを目標に活動してきたが、現状としては引継ぎ作業がうまくいっていない。

支部ニュース関連の会務については、紙面発行回数を 4 回から 3 回にしたものの、その代わりとして PDF 版の発行となったため若干の会務軽減に留まっている。

来年度、ホームページは外部委託で管理出来れば 1 名の減員を見込んでいる。

7) その他

- (1) 臨地実習指導者講習会の講習進捗状況や臨地実習学生受入れ準備は、各施設でどこまで準備できているのか知りたい(神奈川)

回答：令和 5 年度国立病院臨床検査技師長協議会・国立病院臨床検査技師協会が合同で実施した「合同アンケート調査集計報告」(PDF ファイル)において「臨地実習指導者講習会について」が報告されている。各協議会と連携して情報の収集と会員への周知に努めていく。

- (2) タスク・シフト/シェアについて(東京、長野、茨城)

- 他施設のタスク・シフト/シェアに関する状況報告をお願いしたい
- 各施設で実際に取り組まれている業務について吸い上げ、運営等を紹介してほしい
- タスク・シフト/シェアに関して、指定講習会への参加を関信支部として働きかけをお願いしたい

回答：国立病院臨床検査技師協会「令和 5 年度組織実態調査」(PDF ファイル)にて下記の事項について調査が行われ、結果解析が報告されている。各協議会と連携して情報の収集と会員への周知に努めていく。

厚生労働省指定講習会 タスク・シフト/シェア基礎講習受講調査

厚生労働省指定講習会 タスク・シフト/シェア実技講習受講調査

また、令和 5 年度国立病院臨床検査技師長協議会・国立病院臨床検査技師協会が合同で実施した「合同アンケート調査集計報告」(PDF ファイル)において「タスク・シフト/シェアについて」が報告されている。各協議会と連携して情報の収集と会員への周知に努めていく。

8) 自由記載

- (1) 支部への協力は惜しまないが、依頼する際は締切に余裕をもって連絡をいただきたい(埼玉)

回答：支部活動にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。締切り等に余裕をもって依頼を行うように努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

9) 地区代表者質疑応答

- (1) 事務局関連

支部理事を広く多くの会員に経験させる予定はないかについて

群馬地区会：柳澤 隆司

理事が他協議会と交流している事業を教えてください。書面回答の協議会は地区会のことを指しているのか教えてください。また各理事が他の協議会と協働して何か事業を行っているのか。3点について教えてください。

関信支部回答

協議会とは地区会を含む国臨協本部や臨床検査専門職、技師長協議会、他のコメディカル関連団体などを指している。人的交流を通じてと回答に記載しているが、コロナ禍もあり対面での交流はない。文書などで会議の情報を得ながらという状況となっている。回答が大袈裟な表現となり申し訳ない。

地区会との交流については現在理事を各地区会に1名は在籍させており、去年は理事が地区会事務局と必ず問合せをして情報収集や定期総会に参加させていただいていた。現在は「会員の皆様の声」というツールを作成したので今後、皆様方にもツールの利用をご協力いただきたい。

共同事業について目立つところはないが、国臨協本部からの依頼については回答やご協力をさせていただいている。また国立病院機構関東信越グループからの講習会への企画や運営、各地区会で申請されているWeb会議ツールのホストなどご協力させていただいている。

茨城地区会：山田 晶

理事が各地区会にいるにも関わらず、あまり機能していないと思う。情報は地区会の事務局から配信されることが主であり、各理事から地区会へ配信されることはあまりなかったもので、今後していただけるといいと思う。

関信支部回答

地区会の方々へ有意義な情報収集や配信に努めていきたい。お知らせについては各地区会の定期総会でお話しさせていただいているが、内容を見直しさせていただきタイムリーな情報提供ができればと考える。ご意見を真摯に受け止めて対応させていただく。

(2) 事務局関連

「会員の皆様の声」について

神奈川地区会：武山 茂

「会員の皆様の声」はどういった質問を投稿できるのか。学術的な投稿もできるので、学術委員会と混同してしまう会員もいるようである。

回答の期間も理事会にかけてからではなく、三役のみで協議して答えるなど回答の期間が短くなればよいと思う。

関信支部回答

会員の声を広く集めるために運用を開始したが、我々も同じ内容を理事会で話し合っている。支部ニュースにも掲載しているが周知方法が足りないと感じている。確かに頂いたご意見も月に一度の理事会ではタイムリーに答えられないので三役会や臨時のメール会議など今後運用して、臨機応変に対応させていただく。

(3) 事務局関連

支部からのメール連絡について

東京・山梨地区会：北沢 敏男

「施設代表者宛のメールが、技師長・副技師長に届くのは何か理由がありますか」という問いに対する回答が筋違いでないか。会費納入時に施設代表者宛のメールを登録しているのに何故、技師長や副技師長に届くのかという問いなのだが。

関信支部回答

会費納入時の施設代表者宛メールアドレスは会費納入時のみに使用する登録になる。

今後、書き方については話し合いをさせていただく。

(4) 事務局関連

高額な Zoom ミーティング PRO 5ID を使用しているが、無料の Teams を使用し使用料を他の事業等に振り分けることは考えていないのかについて

群馬地区会：柳澤 隆司

昨年度の会長より実際にウェビナーを含めた Zoom ミーティング Pro プランでなければ対応できなかった会議等のイベントはいくつあったのか教えていただきたい。昨年の地区代表者会議でも質問しているが回答がないので説明が欲しい。

関信支部回答

オンデマンド配信など研修会でウェビナーを使用している。昨年の件数について資料が手元にないため回答できない。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

一定の会員数を超えた場合、有料のウェビナーでなければならないと記憶しているがどうか。

関信支部回答

ブイキューブという会社を通して 5ID に加えてウェビナーのセットで Zoom 契約を行っている。会議であればミーティング機能で参加者全員が自由に発言できるが、ウェビナーは発言権限を制限できるため研修会で使用している。特に人数制限でウェビナーを使用しているわけではない。セットプランであるためウェビナーを使用している。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

会員全員が参加できる体制を有料プランでなければ整えられないのであればシンプルでいいと思う。

関信支部回答

現在ミーティングは 100 人まで、ウェビナーが 1,000 人まで参加できる。集合型の研修会は 100 人を下回る場合もあったが、ウェビナーを用いた現在は 200 人から 300 人程度の参加がある。ミーティングのみでは対応できないためウェビナーが必要である。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

その説明で私はとてもクリアに聞こえます。

新潟地区会：竹田 信邦

Web 会議ツール利用申請書を提出しているが、それで回数がわかるのではないか。

関信支部回答

今年度の使用回数は 30 件である。本会議終了後、今年度および昨年度の「Zoom ミーティング」と「Zoom ウェビナー」を分けて集計して報告する。

(5) 文化活動関連

会員交流の場について

東京地区会：後藤 信之

前回の地区代表者会議では令和 6 年度合同交流会を開催する方向で検討すると前地区会長から引き継いだ、集合型イベントに関するアンケート調査が 10 月までかかっている。前回の地区代表者会議から令和 6 年度合同交流会中止を決定したタイムラグの理由を知りたい。

関信支部回答

前回の地区代表者の方々からは開催したほうがいいとご意見・ご指摘いただいた。その後、常任理事会にかけてアンケートを取る事となった。アンケートの集計結果が 10 月頃となったが、アンケート結果の意見もほぼ半分に意見が割れた。前回で開催する方向で検討するとなっていたが、結果を以って検討を開始した。以前より会場などの手配・準備に半年の時間を要していた。また理事についても合同交流会など大勢が集まる文化活動は未経験な者が多く、令和 6 年度合同交流会の早急な対応は困難であった。

代わりではないが、コロナ禍明けとして梅雨明け 7 月または 8 月頃にビアパーティーを代表として開催させていただく。ビアパーティーにより経験を積んで令和 7 年度合同交流会は開催したい。アンケート調査に時間がかかり、未経験者が多く経験の浅さについては誠に申し訳なく感じている。

茨城地区会：山田 晶

文化活動のビアパーティーと合同交流会は関信支部の事業なのか。

関信支部回答

現状としては、ビアパーティーのみ関信支部の事業として登録されており、合同交流会については有志による運営となっている。昨年の地区代表者会議でも意見を伺ったが、キャンセル料が発生すると有志の場合、キャンセル料をどこから支出するのかが問題となった。

コロナ禍で開催を予定していた合同交流会の中止に伴うキャンセルは、当時の支部長判断により支部の予備費を活用して支払った。合同交流会は有志でおこなう会であるため、キャンセル料を支部会費から支払うのか躊躇する一因となっており、昨年の地区代表者会議では事業にする案もあった。事業化する案は検討しており、問題がなければ取り組んでいきたいと考えており、定期総会に支部提出議題として挙げるために理事会で検討しているところである。事業化した際はキャンセル料の懸念が払拭できるので、令和 7 年度の開催を前向きに検討している。

長野地区会：岡村 治

集合型イベントに関するアンケート調査では大満足、満足、普通と回答している合計が 70 %を超えている。結果から、これからも継続していただきたい。

辛辣な意見もあり、満足していない理由であると思うが不満に思う 20%超のご意見も汲みながら進めていただけたらと思います。

関信支部回答

会員の皆様の不利益にならないよう、努めて参ります。

その際はご協力よろしくお願ひいたします。

(6) 学術委員会関連

支部ホームページに掲載されている「学術委員会構成図」について

千葉地区会：仲間 盛之

地区会で研修会を行った時、以前は学術委員が講師となって活動していただいていた。現在も依頼すれば可能かご教授いただきたい。

コロナ禍により時間経過とともに行われていないと感じているため、構成図とともに活動内容のアピールをしてはどうか。学術委員が講師となって活動していたことを広く周知していただきたい。

関信支部回答

以前より学術委員が講師派遣はおこなっていたが、コロナ禍の影響もあり派遣はできていなかった。コロナ禍も明けた状況となってきたので地区会の定期総会や研修会、その他でもご依頼いただければ学術委員とお話しさせていただく。また、学術委員から適任者がいないようであれば、学術委員からの推薦者を派遣することも理事会にかけて可能である。

学術委員会の在り方(活動を含め)はコロナ禍による時間経過とともに停滞気味であった。

構成図を含めて見直し、学術委員会へ依頼協力のお願ひを行う。また関信支部からはお知らせのなかに学術委員が講師を出来ることを盛り込んで、皆様方へ周知していく。

(7) 学会関連

学会の開催方式について

新潟地区会：竹田 信邦

開催方法の回答は集合型のみで行うと認識していいか。

関信支部回答

はい。

東京地区会：後藤 信之

遠方から参加する会員はハイブリッド開催がいいと思うが、回答にある 200 万程度の見積りは安くなるように検討できないか。

関信支部回答

200 万円は以前検討した際の予算である。コロナ禍以前、実際に何社か見積りを取って検討しており、国立国際医療研究センター病院でハイブリッド開催した場合の最安値である。200 万円以上かかることは明らかであり、ハイブリッド開催は難しいと考えている。

東京地区会：後藤 信之

他学会はハイブリッド開催しているが、本当に 200 万円以上の予算をかけて開催しているのかと思い、他に安いところがないか。

関信支部回答

他学会の予算はわからないが、関信支部の予算内では難しい。利便性は上がるが、関信支部学会の視聴者数からも費用対効果が高いとは感じていない。とりあえずとなるが、来年度は集合型で開催させていただきたい。

神奈川地区会：武山 茂

ハイブリッド開催だと録画してオンデマンド配信する配信料など業者に依頼する必要がある、200 万円以上必要と思う。

学会参加に関して遠方の会員で来訪できない場合、演題を録画して参加することが出来れば発表者が増えると思う。

関信支部回答

他学会でも行われており、視聴で単位を与えていたりすることもある。良いご意見をいただいたので検討させていただく。

(8) 広報関連(ホームページを含む)

ホームページの活用について

東京・山梨地区会：北沢 敏男

会員への情報提供として会員のページは更新されており非常によくやっけていただいているが、一般向けに対するコンテンツをどのように考えているのか。基本的に会員向けで考えて行くのか。

関信支部回答

ホームページについては、会員の皆様がどれだけホームページに対して重きを置くのか考えており、全国支部長会議の際に出席者に伺ってみたところ各支部においても温度差が大きかった。いらないと放置している支部もあれば、担当者を決めて行っている支部もあった。会員の皆様がホームページに対する要望の度合いによって温度差があるが、会員のページについては更新した情報を配信させていただいている。

一般向けコンテンツについては、個人情報保護の観点から個人情報が含まれない研修会履歴や関信支部学会のページはパスワードをかけずに一般向けに開示している。またリンクについては昨年度より内容を増やして医療関連団体や組織、臨床検査技師関連学会や資格へのリンクを充実させ、一般向けコンテンツとして公開している。

新たなコンテンツについては今後協議しながら検討していきたいと考えている。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

外部委託化まで考えるなら確りとホームページを綺麗にして情報発信できる支部になっていただければと思います。

(9) 広報関連(ホームページを含む)

支部ニュースの発送について、学会特別号の PDF 配信は良かったと思う。経費削減を考慮して、PDF 配信を推進してはいかがかについて

茨城地区会：山田 晶

以前 PDF 化してホームページに載せていた時期があったが、あまり評判がよくなく辞めた経

緯がある。そこを踏まえて考えると実際どうなのか。

関信支部回答

昨年度は紙面で 4 回、今年度は 3 回といった形にさせていただいて、紙面発行がいい意見と PDF がいいという意見をともにいただいている。

茨城地区会：山田 晶

10 年ほど前のことであり、金銭のことや時代もあると思う。

関信支部回答

発行費用の削減を行いホームページの外部委託化費用の捻出に充てることなどを検討しているが、今後、紙面での発行を全く行わないとは考えていない。まず紙面での発行回数を段階的に減らせればと考えている。

9. 関信支部提出議題

1) 事務局関連

(1) 集合型イベントに関するアンケート調査結果について

関信支部全会員数：679 名(11 月 1 日付会員調査時)

回答数：461 名、回答率：67.9 %

今後もイベントの継続を希望するか。

希望あり：232 名(50.3 %)、希望なし：229 名(49.7 %)

(2) 令和 6 年度合同交流会および集合型懇親会(ビアパーティー等)について

新型コロナウイルス等の感染状況および会場確保の観点から、飲食を伴う集合型イベントも段階的に再開する。令和 6 年度の合同交流会は中止、ビアパーティーを試験的に再開とし、その出席状況等を確認し、令和 7 年度の合同交流会再開を目指す。

(3) 第 52 回国臨協関信支部定期総会(電磁的表決など)について

昨年度と同様な電磁的表決に加えて、Web 総会の実施を検討している。

(4) Web 会議システム(ウェビナー)の契約継続について

次年度は通常の三役・理事会は Teams で行い、研修会などで必要時にスポット利用とすることとし、年間契約は行わないことを検討している。

(5) 令和 5 年度国臨協関信支部会費(4,000 円)について(報告)

Zoom ウェビナーの契約更新を行わず、学会参加費(2,000 円程度)の徴収、支部ニュースの紙面での発行回数を減らしホームページ外部委託化費用に充てることなどを試算し、次年度繰越金は減額するが、可能であれば会費の時限的減額(1,000 円)を行うことを検討している。

(6) 関信支部表彰規程改定について

本部表彰の被表彰者は対象外とすることの明文化、支部表彰推薦条件の厳格化を目的に改定

を行う。また、これまで推薦依頼時に退職予定者リストを添付していたが、NHO、NC、療養所で定年のズレが生じていることや、退職のタイミングの把握が困難であることから次年度からはリストの添付は行わないこととしたい。

(7) 次年度事務局事業方針案について

a) 組織の充実

懸案事項は迅速に展開し、適正、効果的かつ効率的な対応を目指す。

変化に柔軟な対応をし、組織の安定的な運営の確保、会員の需要に応じた支部活動を行う。関連協議会と各地区会および臨床検査専門職との需要に合わせた連携を深める。

b) 事務管理の向上

Web 会議システムを継続採用し、Web 会議の積極的な利用を推進する。役務分担をより明確にし、役務の見直しを積極的に行うことで役員の負担軽減を図り、会務遂行が円滑に行われるよう務める。会員の異動など各種情報や関係資料を、速やかに会員へ提供する。

c) 関係協議会等との連携

地区会：集合型または Web 形式による情報交換と交流について検討し、会員の要望に沿った会務を実施する。

関東信越グループ専門職：関東信越グループ主催の研修会等に積極的に協力する。

国臨協本部：本部事業への協力と推進を行う。

技師長協議会：技師長協議会事業に協力する。

国臨協 OB 会関信支部：情報交換を行う。

d) 関係諸団体への提言活動

関連協議会等と連携し、関係諸団体への提言活動を継続する。

e) 文化活動

会員の交流活動については新型コロナウイルス感染症等の感染状況を鑑み、Web 等を利用し文化活動の継続・発展を図りつつ、段階的な対面・集合型での開催再開を目指す。

2) 学術関連

(1) 第 52 回国臨協関信支部学会のテーマ及び開催方法について

学会テーマは「PRIDE ～必要とされる検査技師へ～」と決定した。集合型にて開催を予定しており、学会会場の選定を実施している。

集合型開催に向けて、外部委託業者の利用の有無、演題発表にかかるシステムの外部委託業者の選定を行っていく。また、計画的な準備および開催に向けた理事(集合型学会が未経験な理事)の再教育等も併せて進めていく。

(2) 令和 6 年度の国臨協関信支部主催研修会の開催方法について

令和 6 年度の研修会については例年にならい年 4 回(うち 1 回は症例検討会とする)の開催を予定する。次年度は、集合型と Web での併用にて開催を行いたいと考える。本年度同様に Web 研修会においては、多くの会員が視聴できるようオンデマンド形式での開催を考える。集合型

の研修会においては、予算を含めハイブリッド型の研修も検討することとする。

(3) Web 会議ツールの今後の利用について

支部での会議にて次年度も使用することや研修会等のリアルタイム配信を行うために Web 会議システム(ウェビナー)の契約継続が必要と考えるが、集合型での研修会が増えることが予想されることから、スポット契約での運用が妥当と考える。また各地区会においても集合型での総会や研修会を推進していただき、Teams 等の可能な Web 会議システムの利用を推進する。契約のシステムや内容については予算や使用目的を考慮し検討する。

(4) 次年度学術部事業方針案について

a) 学術・技術の振興

学術委員会と連携を図り、将来にわたって臨床検査の専門性を活かし活躍し続けることのできる人材の育成に力点を置いた教育・研修、学会運営などを行う

- 新人職員に向けた技術的、教養的な研修会の開催
- メンタルサポートを目的とした研修会の開催
診断後の治療方法や職場復帰に向けた内容について産業医等の講演を検討
- 医療情勢に対応した教育研修会の開催
臨地実習の新カリキュラムに向けた取り組みや学校側の講演を検討
- 集合型研修会と Web 研修会を併用し、会員の学習機会や意欲および利便性の向上を図り、情報共有の場の提供を推進する
Web を利用した会議、研修会、学会などの学術事業の継続及び充実
集合型での開催することにより会員相互の情報共有を積極的に行う
オンデマンド配信サービスの導入により研修会後にも一定期間の学習の場を設ける

b) 学会運営

- 第 52 回関信支部学会において集合型開催に向け準備を進める
- 会員の日常業務に活かすことのできる研究や検討・活動などについて発表し、活発な討議が行えるよう学会運営を進めることとする
- 会員相互の情報共有の場、新たな交流の場として学会の充実を図る

c) 学術委員会の充実

会員の要望を反映し、気軽に質問・相談・利用できる学術支援体制を整える

- 定期的に Web 会議を開催し学術委員と共同して年間の事業計画を立てる
- 集合型および Web 型研修会を併用し、国臨協関信支部研修会、および第 52 回国臨協関信支部学会における分科会の充実を図る
- 学術委員会の活動を身近に感じる広報活動を関信支部ホームページへ掲載する

3) 広報関連(ホームページを含む)

(1) 支部ニュース・ホームページの内容について

- a) 学術・文化活動の制限が緩和されている状況のなかで、再開されつつある実技研修等の学術活動や地区会活動の情報共有の場として、支部ニュースやホームページをうまく活用出来るよう務めていく
- b) 会員が携わっている学会活動や研修会等の情報収集を積極的に行い、すべての会員に知ってもらい更に参加もしくは協力できるような学術情報を発信していきたいと考えている
- c) ホームページ内に会員からの幅広いご意見を伺うため新たに「会員の皆様の声」を設置した。このコンテンツの利用状況や意見、要望等の内容を検証し必要に応じて随時修正していく。
- d) 昨年度に引き続き、支部ニュースにホームページと支部ニュースのアドレスおよび QR コードを掲載し、スマートフォンにおける閲覧の使用促進を図る。また、施設連絡責任者宛のメール配信時に支部ホームページ QR コードを貼付けて配信する。

(2) ホームページ管理の外部委託について

ホームページ管理については、担当理事がほとんど一人で運用しているため非常に会務の負担が掛かっており、スキルの引き継ぎが困難な状況にある。また、担当理事の転勤に伴い更新作業も滞っており、現在の運用では継続がとて難しい状況になっている。そこで現在の運用を改善するため外部委託を模索し調査したところ、新たな経費が必要となるものの担当理事に依存する運用が回避できるため今後を見据え来年度に試行段階に入りたいと考えている。調査結果(メリット・デメリット、委託業者、契約内容、委託費用等)については別紙資料の通りである。

(3) 支部ニュースの年間発行数について

今年度は経費削減や理事の会務負担軽減を鑑みて発行回数を 4 回から 3 回とした。発行しなかった 11 月号の主な内容は学会報告となっており、それを補うため学会特別号として PDF 版を新たに発信した。紙面発行を減らすことで経費削減となったため、来年度もこの運用は継続していきたいと考えている。更に、今後を見据えて他号でも電子化の発行を検討していく。そこで、ホームページを外部委託することにより新たな経費が生まれるため、支部ニュースの年間発行数を更に 1 回削減することで経費を補填することが出来ると考え試算を行った。8 月発行分の内容を臨時号(人事異動)や学会抄録集と組み合わせることで集約化を図り、その削減した経費をホームページ外部委託経費に回すことが出来るため討議したいと考えている。支部ニュース記事内容と削減経費については資料を参照していただきたい。

4) 地区代表者質疑応答

(1) 事務局関連

第 52 回国臨協関信支部定期総会(電磁的表決など)について
茨城地区会：山田 晶
議案集はいつごろ配信予定なのか。

関信支部回答

3 月半ばを予定している。例年通り、予算案などの資料は別途 PDF で配信する。
また定期総会の前には研修会も予定している。

(2) 事務局関連

Web 会議システム（ウェビナー）の契約継続について

関信支部回答

Zoom ミーティング PRO 5ID に加えて、500 人のウェビナー契約をスポットで契約するプランがある。Teams の利用は無料、ミーティング参加人数は 300 人、ウェビナー使用はできない。Zoom ミーティングに関しては 5ID で 118,800 円、ミーティング利用は 100 人までで会議利用をお願いしたい。ウェビナーに関しては年間契約をスポット契約に変更する。スポット契約は月額 15,600 円で 500 人まで参加できる。関信支部では Zoom ミーティング PRO 5ID に加えて、スポットでのウェビナー契約を進めて行きたいと考えている。

個人で 1ID ずつ契約することもできるが、支払いがクレジットカードである。5ID 契約する理由としてはクレジットカードを法人で取り扱うのはいかがなものかと考えており、法人利用としては企業を通したパッケージ契約を進めて行きたいと考えている。

千葉地区会：仲間 盛之

ウェビナーのスポット契約が月額 15,600 円とあるが、費用 118,000 円に加えて毎月支払うのか。

関信支部回答

ウェビナーのスポット契約は、契約したその月内は利用し放題であり毎月支払う月額ではない。

新潟地区会：竹田 信邦

会員はこれで元が取れるのか。それだけの企画など会員が求めている研修会を今後開催する予定はあるのか。

関信支部回答

ウェビナーは研修会を開くためのコンテンツであり、会員数と研修会や関信支部学会の参加率を考えると 500 人は参加できる契約が必要である。研修会は例年通り今後も継続して開催していく。内容に関しては今後の目途が立っていないため、各地区会から内容に関して要望があればウェビナーを使用して対応する研修会を開催したい。

新潟地区会：竹田 信邦

今後はウェビナーを利用した回数など記録をお願いする。

関信支部回答

はい。

スポット契約のウェビナー利用となるため今後は支部からの提供はできず、地区会がウェビナー利用する場合は各地区会で対応をお願いする。ミーティング利用であれば契約内で行えるため、関信支部常任理事会や学術委員会の会議などは Zoom ミーティングを利用していく。ウェビナースポット契約の契約月内は無制限に使用できるため、地区会研修会と定期総会が

重なる場合は契約月内の月額費用内で行える。会員の皆様にとって Web 会議システム(ウェビナー)の契約継続が必要かどうか確認することが重要であると考えている。来年度の事業計画として総会に諮り、会員の皆様方のご承認をいただき運用を継続していくことを考えている。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

今年度の契約費用が約 40 万程度であるが、質は落とさないで経費が削減できるのか。

関信支部回答

Web 会議システム(ウェビナー)の契約・運用開始直後は知識不足でご迷惑をおかけしたが、運営会社との相互協力で契約費用は安くしてきた。来年度は集合型開催も行っていくが、家庭を持っている女性会員などからは Web 方式での研修会の開催を継続してほしいとの要望があった。前回の関信支部主催研修会参加率を見てみると、東京に隣接していない地方の地区会の参加率は 50 %を超えており、逆に都心部は参加率が低い状況となっている。東京から遠方の地区会の Web 研修会の参加率が高いことと、都心部を中心とした集合型開催とするだけでなく遠方の方々にも研修会の機会を提供していきたいとも考えているので、Web 会議システム(ウェビナー)の契約の継続を考えている。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

そういった利益があるならいいと感じる。

東京地区会：後藤 信之

ウェビナーのスポット契約を行いたいときはどの段階で支部に連絡したらいいのか。

関信支部回答

準備があるため 1 ヶ月弱を目途としていただきたい。

これからの常任理事会で運用などさらに詰めてまいります。

(3) 事務局関連

令和 6 年度国臨協関信支部会費 (4,000 円) について

関信支部回答

令和 6 年度の関信支部学会の参加費は 2,000 円を予定している。

学会の予算など検討の結果、来年度は 1,000 円の減額が可能であり、試験的ではあるが令和 6 年度の会費は 3,000 円とする。

(4) 関信支部表彰規程改定について

千葉地区会：仲間 盛之

リストの添付を行わないとは何か。

関信支部回答

療養所の定年延長や NC からの情報収集が難しいこともあり、リストを配信したことにより誤解を招くことが今年度発生した。各地区会長のほうが各会員のことをよく存じ上げていると思いますので、来年度はリスト配信を中止して各地区会から被表彰者の選定を行っていただきたい。

東京・山梨地区会：北沢 敏男

事務局長から各施設に連絡して対象者を伺う形はどうか。地区会長だと他の施設のことは難しい。

関信支部回答

よろしければ、NH0 は把握できるので NH0 以外の施設には協力をお願いする。

関信支部の事務局長より各 NC 及び療養所等の施設長へ連絡してご協力いただく。

10. 閉会の挨拶（椎名副支部長）